

2011年度 情報モラル調査結果(過年度比較)

2012年3月23日

岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

＜調査対象＞ 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部

小学校	5年・6年 の児童
中学校	1年・2年・3年 の生徒
高等学校	1年・2年・3年 の生徒
特別支援学校	高等部 1年・2年・3年 の生徒

＜調査方法＞ 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラスを抽出して、無記名アンケートにより調査

＜実施期間＞ 2011年 11月～12月

＜調査数＞ ※ 「高」は特別支援学校高等部を含む
(2011年度)

学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	375	374	186	186	186	92	92	91	375	187	92	1,582
クラス数	375	375	186	187	186	94	94	93	750	559	281	1,590
人数	9,451	9,655	5,038	5,549	5,469	2,700	2,621	2,560	19,106	16,056	7,881	43,043
男子	4,820	4,912	2,566	2,859	2,799	1,479	1,367	1,376	9,732	8,224	4,222	22,178
女子	4,631	4,743	2,472	2,690	2,670	1,221	1,254	1,184	9,374	7,832	3,659	20,865
男女比(%)	51 : 49	51 : 49	51 : 49	52 : 48	51 : 49	55 : 45	52 : 48	54 : 46	51 : 49	51 : 49	54 : 46	52 : 48

(2010年度)

学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
人数	9,699	9,834	5,688	5,716	5,682	2,757	2,642	2,534	19,533	17,086	7,933	44,552
男女比(%)	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	50 : 50	53 : 47	54 : 46	52 : 48	50 : 50	51 : 49	53 : 47	51 : 49

【 調査結果の概要 】

◆【携帯電話・インターネット使用について】

- ・PCによるインターネット使用はやや増加傾向にある。
- ・携帯電話所持率は中3は年々減少の傾向にあるが、その他の学年ではやや増加の傾向にある。
- ・フィルタリング率はほとんどの学年で向上している。特に中2～高3でのフィルタリング率が向上した。女子高校生のフィルタリング率が低いことが課題である。
- ・オンラインゲームやブログ・プロフ等のサービスを利用する割合が増加している。ホームページ(ブログやプロフを含む)を持っている女子高校生は過半数を超える。
- ・携帯電話を毎日使う割合は増加しており、中高生の「ほぼ毎日使う」と答えた生徒の大半が1日に1時間以上使っている。

◆【使い方のルールやマナーについて】

- ・すべての学年において、「学校の授業等で情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがある」と答えた割合が増加している。
- ・携帯電話を所有している子どものうち、「家で携帯電話の利用の仕方の決まりはない」と答えている割合は小・中・高とも過半数を超えている。

◆【被害・ネットいじめとその対応について】

- ・昨年度と比較し、被害率に大きな変化は見られない。被害数そのものの絶対数は少ないが、「被害に遭って解決できず今も続いている」「いじめをうけたことがある」と答える子どもが存在しており、指導と相談体制の充実が求められる。
- ・ネットでのいじめを受けた原因として「学校でのトラブル」と答える割合が増加し、日常生活とネットでのトラブルの関連が深まっている。
- ・被害を受けた場合、「教師や保護者などの大人に相談する」割合が減少し、「友だちに相談する」「誰にも相談しない」と答える割合が増加している。

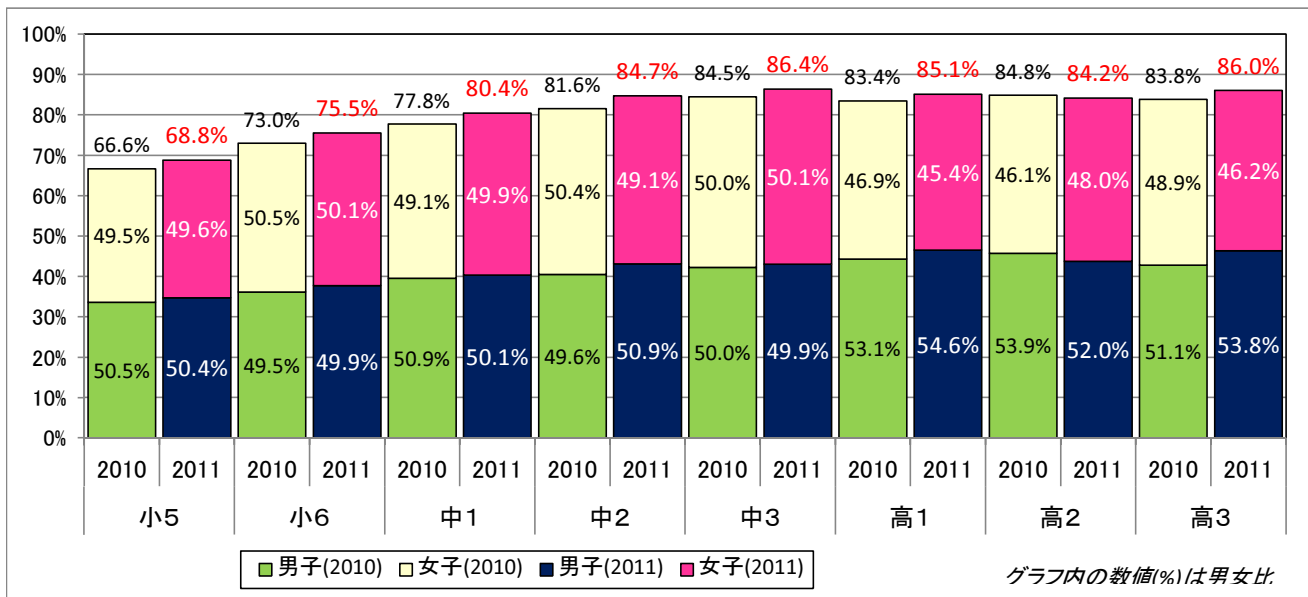
◆【参考資料】

- ・「情報モラル指導モデルカリキュラム」(文部科学省 平成19年5月23日)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1296900.htm
- ・「情報モラル指導者養成研修ハンドブック」
(文部科学省「学校における情報モラル等教育の推進事業(指導者養成事業)」のテキスト)
http://www.cec.or.jp/monbu/21j_moral_data.html
- ・「ケータイ 赤信号！」(H23 情報モラル育成に関するリーフレット 岐阜県教育委員会 平成23年12月)
<http://gakuen.gifu-net.ed.jp/~contents/teacher.html>

Q1

家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	68.8%	75.5%	80.4%	84.7%	86.4%	85.1%	84.2%	86.0%	72.2%	83.9%
	2010	66.6%	73.0%	77.8%	81.6%	84.5%	83.4%	84.8%	83.8%	69.8%	81.3%	84.0%



◆全体的に微増傾向にあり、家庭でインターネットが使用できる環境が広がり続けている。ほとんどの中高生は、家庭においてもインターネットができるPCを使うことができる環境にある。

【指導のポイント】

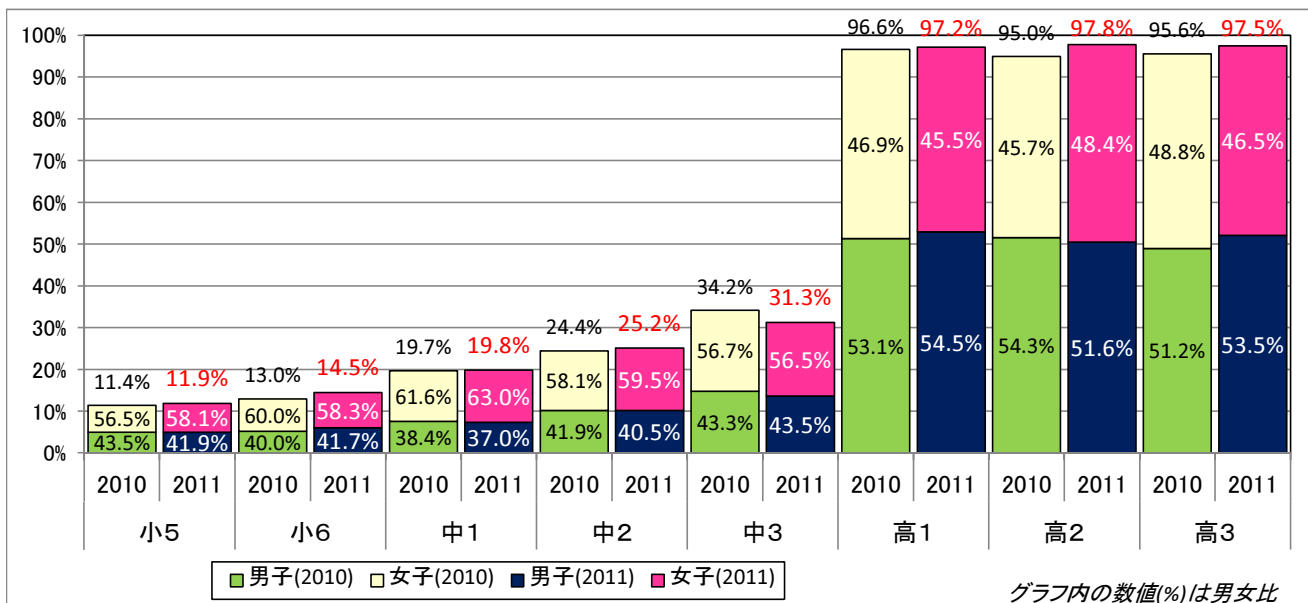
○家庭の中で子どもが「一人きり」で使っていることがないかに視点をあてる。また、閲覧履歴など子どもの利用状況を保護者が常に把握するようにすすめる。

○家庭のパソコンにも「フィルタリングソフト」を導入し、子どもを有害な情報にふれさせないよう保護者に啓発する。

Q2

あなたは、自分の携帯電話をもっていますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	11.9%	14.5%	19.8%	25.2%	31.3%	97.2%	97.8%	97.5%	13.2%	25.6%
	2010	11.4%	13.0%	19.7%	24.4%	34.2%	96.6%	95.0%	95.6%	12.2%	26.1%	95.7%



◆高校生はほとんどの生徒が所持しているが、小・中学生においては所持していない児童生徒の方が多い。特に中3は年々所持率が減少し、義務教育の間は子どもに携帯電話を買い与えない傾向が見られる。しかし、小中の他学年では昨年まで年々所持率が低下してきたが、微増ながら増加傾向に転じている。

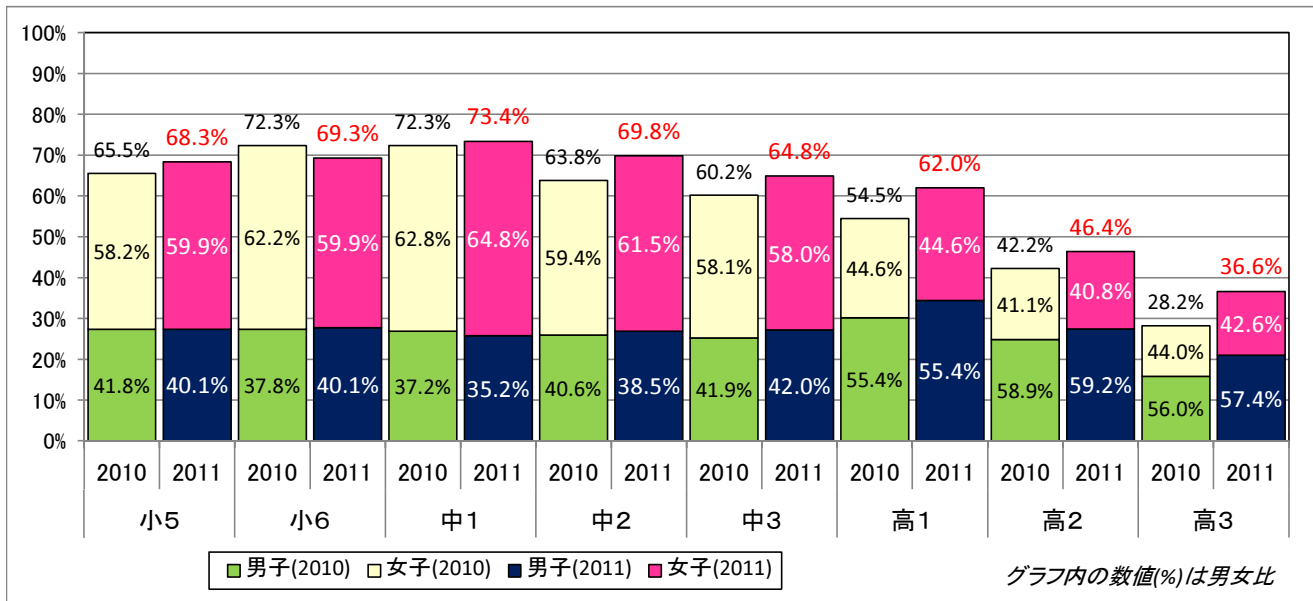
【指導のポイント】

○子どもが携帯電話を所持しているかに関わらず、小学校の早い時期から情報モラル教育を系統的、計画的に行い、子どもの情報モラルを確実に身に付けさせる指導が必要である。

Q3

あなたの携帯電話はフィルタリングしていますか。(Q2で「もっている」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	68.3%	69.3%	73.4%	69.8%	64.8%	62.0%	46.4%	36.6%	68.9%	68.6%
	2010	65.5%	72.3%	72.3%	63.8%	60.2%	54.5%	42.2%	28.2%	69.2%	64.4%	42.1%



◆ほとんどの学年でフィルタリング率が向上している。特に中2～高3でのフィルタリング率の向上が著しい。しかし、どの学年とも100%のフィルタリング率が望ましいことから考えると、さらにフィルタリング率の向上が必要である。性被害などの深刻なトラブルに遭いやすい女子高校生のフィルタリング率が特に低く、問題である。

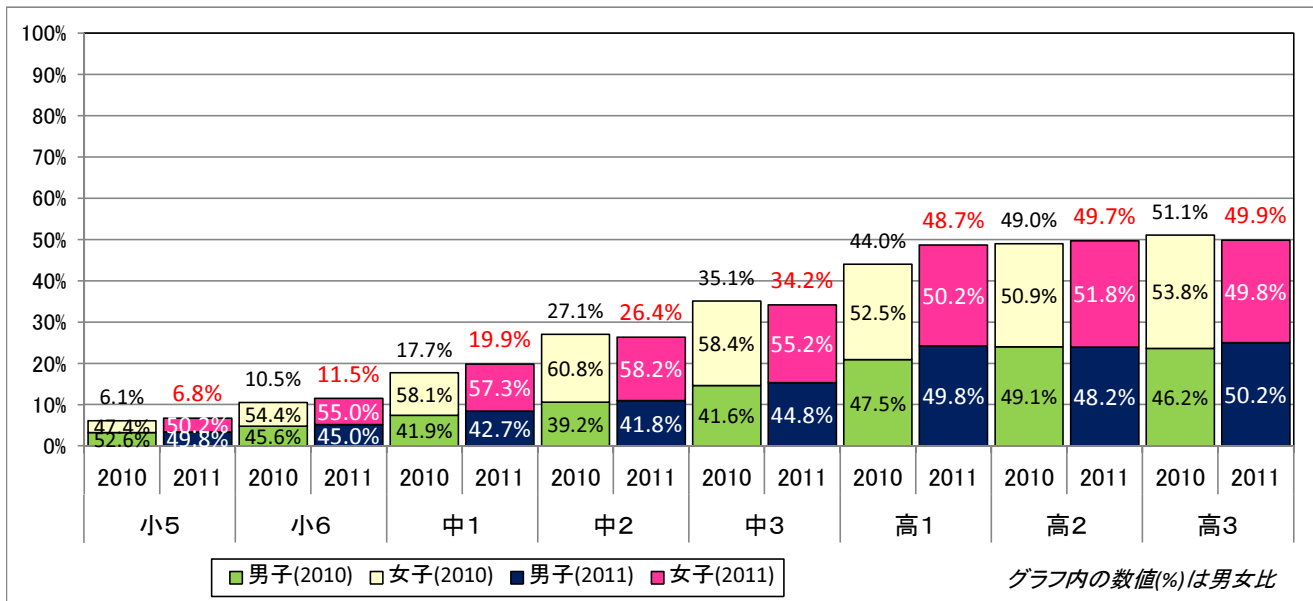
【指導のポイント】

○中高生においてもフィルタリングの必要性は高いので、安易にフィルタリングを解除しないように保護者に啓発をする。また、年齢に応じた「利便性」と「安全性」を両立させる適度なフィルタリング設定ができることを知らせ、継続してフィルタリングを活用するようすすめる。

Q4

あなたは、インターネットや携帯電話の掲示板に書き込みをしたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	6.8%	11.5%	19.9%	26.4%	34.2%	48.7%	49.7%	49.9%	9.2%	27.0%
	2010	6.1%	10.5%	17.7%	27.1%	35.1%	44.0%	49.0%	51.1%	8.3%	26.6%	47.9%



◆小5～中1及び高1の掲示板への書き込みが増加している。これらの学年は携帯電話を持ち始める子どもが多い学年であり、興味本位で安易な書き込みをしてしまうおそれが高い。また、ほとんどの学年で男子よりも女子の書き込み率が高い。

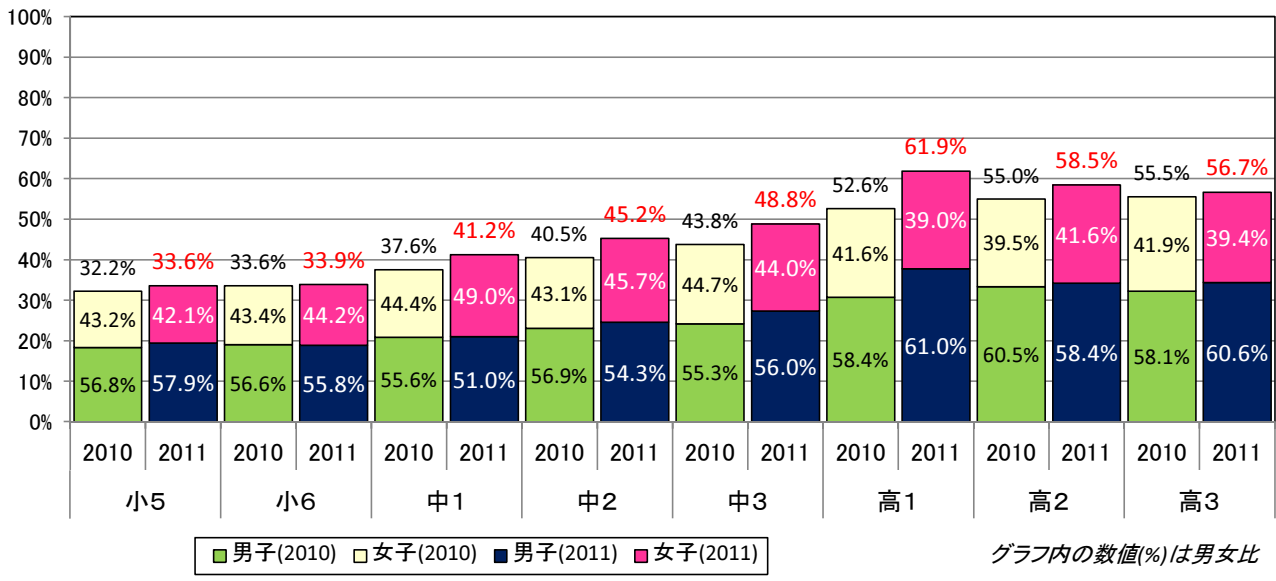
【指導のポイント】

○ネットは匿名性が高いと感じられやすいが、重大な犯罪や人権侵害に発展するような場合には、電話会社や警察などによって発信者を特定することができることを伝え、匿名性を悪用した安易な書き込みを行わないよう指導する。

Q5

あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	33.6%	33.9%	41.2%	45.2%	48.8%	61.9%	58.5%	56.7%	33.7%	45.2%
	2010	32.2%	33.6%	37.6%	40.5%	43.8%	52.6%	55.0%	55.5%	32.9%	40.6%	54.3%



◆すべての学年でオンラインゲームの使用率が増加している。全体的には男子の方がオンラインゲームをする傾向にあるが、女子向けのゲームが増えてきたことにより、中学生を中心に女子が利用する割合が増加している。

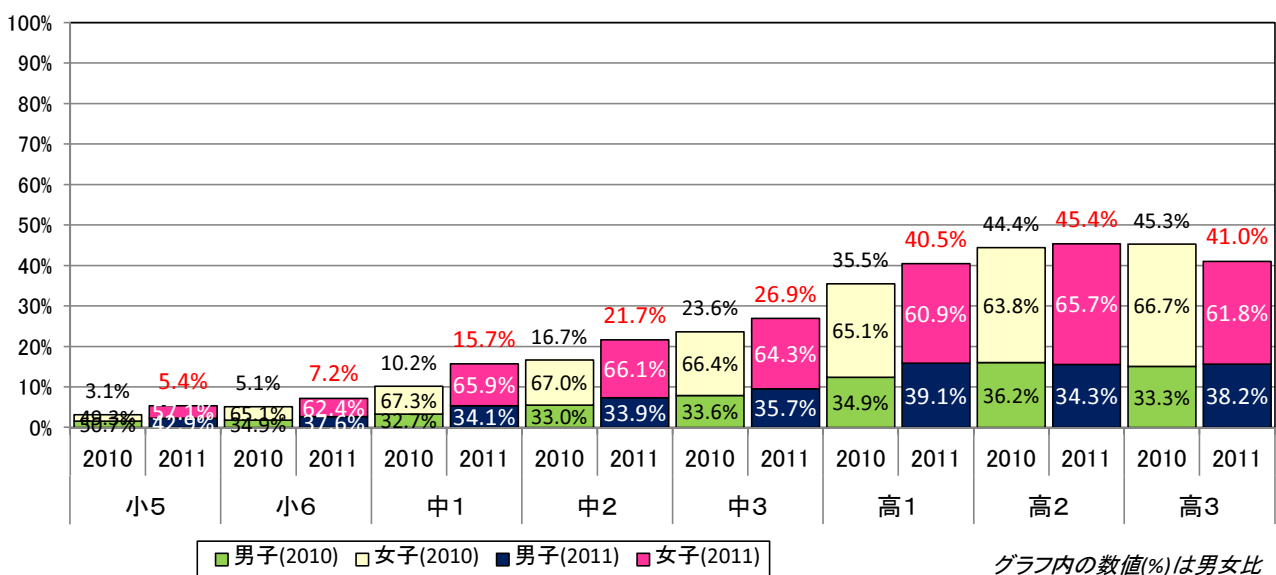
【指導のポイント】

○ゲームの中で知り合った人に安易に個人情報を伝えたことによる被害、他人のIDやパスワードを悪用したトラブルや犯罪、長時間のゲームによる健康傷害などの例を具体的に示し指導する。また、「無料ゲーム」のすべてが無料だと思い込み、有料アイテム等を購入することによって高額な請求を受ける事例についても注意を促す必要がある。

Q6

あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ(ブログ・プロフを含む)を持っていますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		2011	5.4%	7.2%	15.7%	21.7%	26.9%	40.5%	45.4%	41.0%	6.3%	21.6%
	2010	3.1%	5.1%	10.2%	16.7%	23.6%	35.5%	44.4%	45.3%	4.1%	16.8%	41.6%



◆高3を除くすべての学年でブログやプロフを作成している割合が増加しており、子どもたちが簡単に情報発信をしている様子が見られる。特に中1～高1の増加率が顕著に高い。全体的に女子の使用率が大変高く、女子高校生はどの学年とも過半数の生徒がホームページ(ブログやプロフを含む)を持っている状況である。

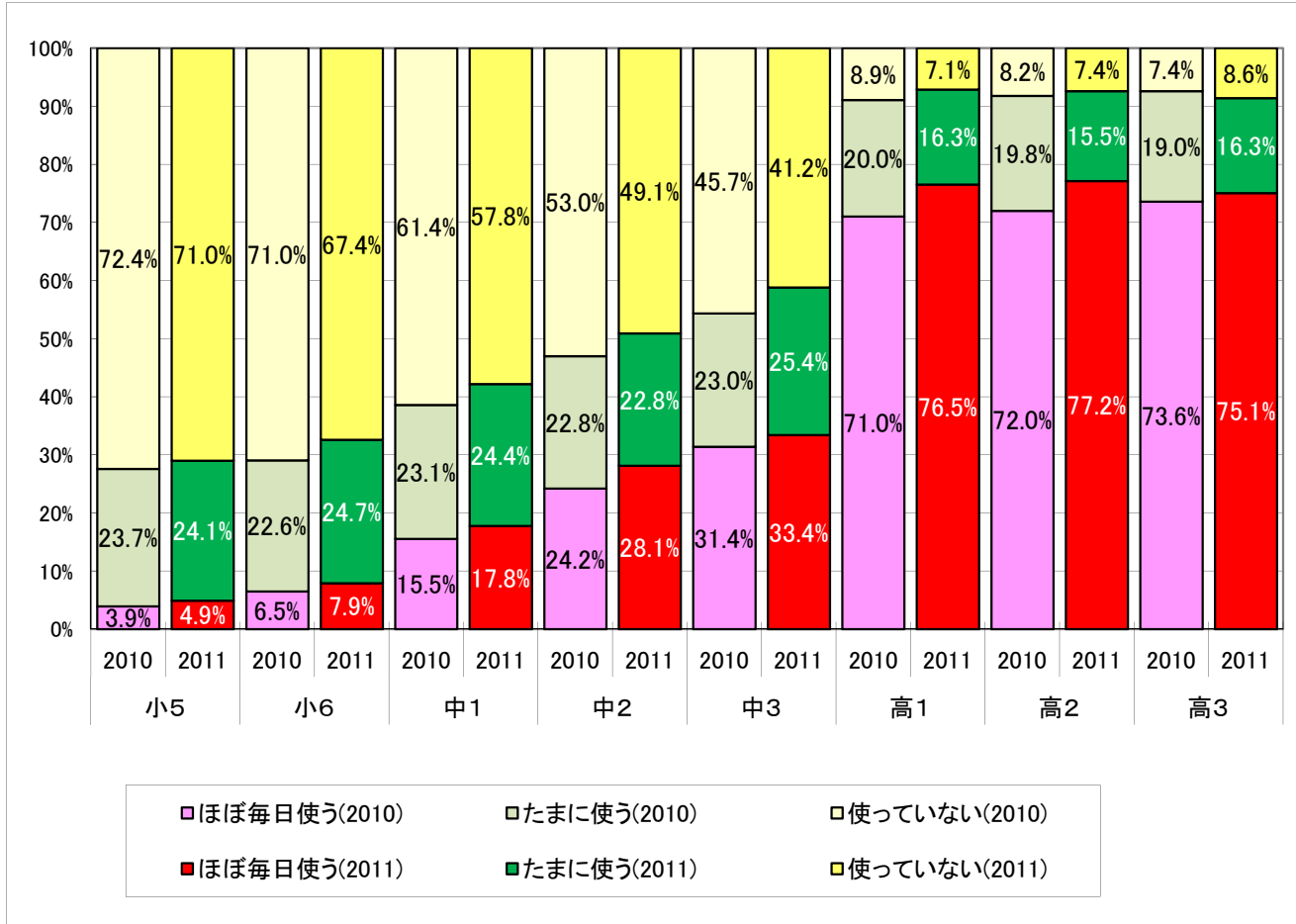
【指導のポイント】

○同世代の仲間と交流するためにブログやプロフを行っている意識が大変強いが、あらゆる目的をもった人が閲覧し、それらの情報を悪用する場合もある。個人情報や自分の写真等「個人を特定できる情報」を公開することにより、つきまといや脅迫などの被害にあう可能性があることを確実に指導する必要がある。

Q7

ホームページを見たり、メールをしたり、掲示板を使ったり、オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ほぼ毎日使う	2011	4.9%	7.9%	17.8%	28.1%	33.4%	76.5%	77.2%	75.1%	6.4%	26.7%	76.3%
	2010	3.9%	6.5%	15.5%	24.2%	31.4%	71.0%	72.0%	73.6%	5.2%	23.7%	72.2%
たまに使うだけ	2011	24.1%	24.7%	24.4%	22.8%	25.4%	16.3%	15.5%	16.3%	24.4%	24.2%	16.0%
	2010	23.7%	22.6%	23.1%	22.8%	23.0%	20.0%	19.8%	19.0%	23.1%	23.0%	19.6%
使っていない	2011	71.0%	67.4%	57.8%	49.1%	41.2%	7.1%	7.4%	8.6%	69.2%	49.1%	7.7%
	2010	72.4%	71.0%	61.4%	53.0%	45.7%	8.9%	8.2%	7.4%	71.7%	53.4%	8.2%



◆すべての学年において、「ほぼ毎日使う」と答えた割合が増加しており、昨年までは減少傾向にあったが今年度再び増加傾向に転じている。特に高1・高2の使用頻度の割合が高くなってきている。また、女子中学生の使用頻度の割合も高くなっている。

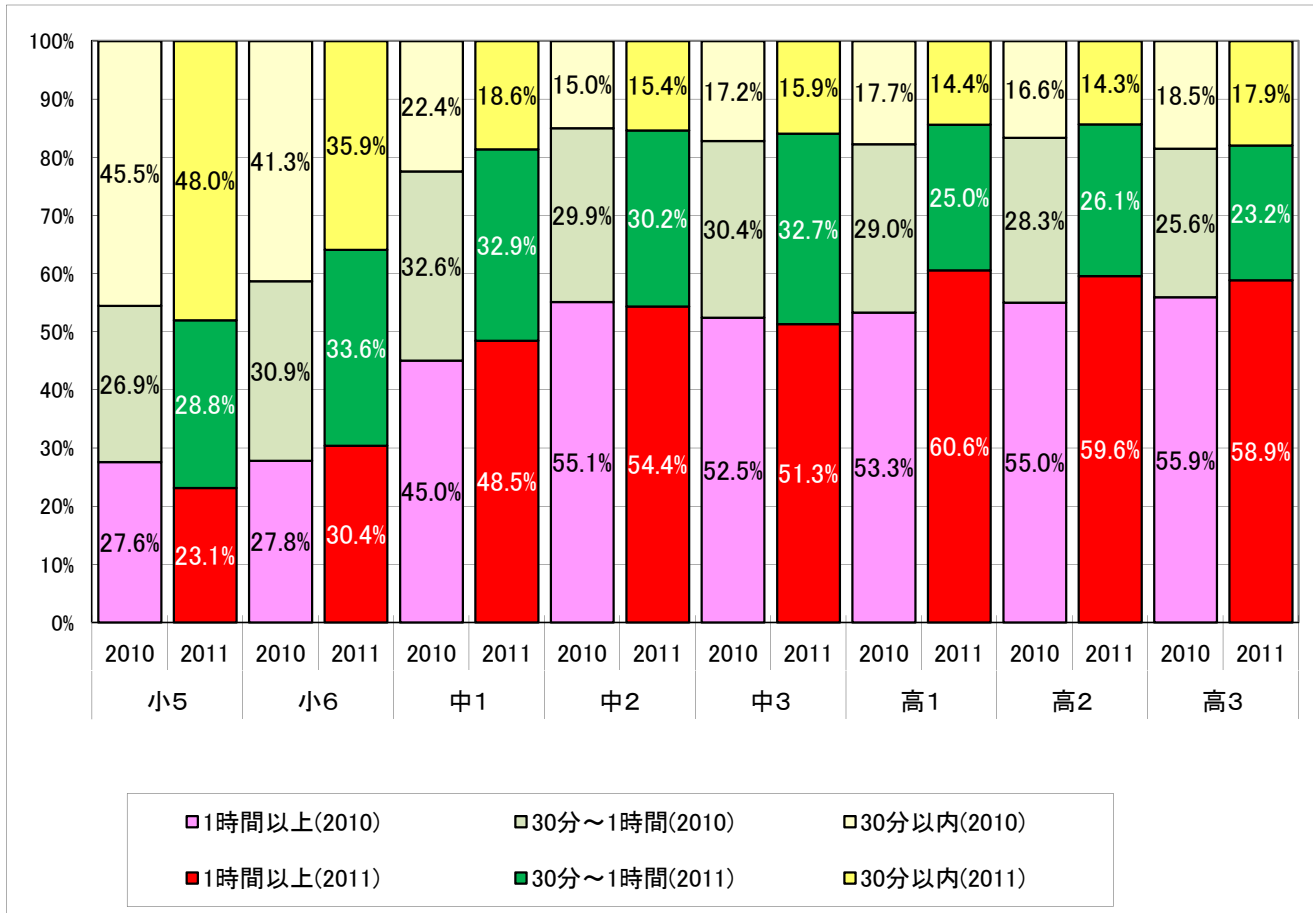
【指導のポイント】

○「携帯依存」が、これまでの安定した生活のリズムや心身の健康を損なってしまうことを実例をあげて理解させる。携帯電話を「暇つぶし」や「何気なく」使用するのではなく、目的をもって適度に使用できるよう指導する。

Q8

Q7で「ほぼ毎日」と答えた人は、使う時間は1日当たりどれくらいですか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
1時間以上	2011	23.1%	30.4%	48.5%	54.4%	51.3%	60.6%	59.6%	58.9%	27.7%	51.8%	59.7%
	2010	27.6%	27.8%	45.0%	55.1%	52.5%	53.3%	55.0%	55.9%	27.7%	51.8%	54.7%
30分～1時間	2011	28.8%	33.6%	32.9%	30.2%	32.7%	25.0%	26.1%	23.2%	31.8%	31.9%	24.8%
	2010	26.9%	30.9%	32.6%	29.9%	30.4%	29.0%	28.3%	25.6%	29.3%	30.7%	27.7%
30分以内	2011	48.0%	35.9%	18.6%	15.4%	15.9%	14.4%	14.3%	17.9%	40.5%	16.3%	15.5%
	2010	45.5%	41.3%	22.4%	15.0%	17.2%	17.7%	16.6%	18.5%	42.9%	17.6%	17.6%



◆ 中学生において、「ほぼ毎日」携帯電話を使う子どもは、その過半数が「一日に1時間以上使用する」状況がうかがえる。また、小6・中1及び高校生において「一日に1時間以上使用する」と答えた割合が大きく増加している。

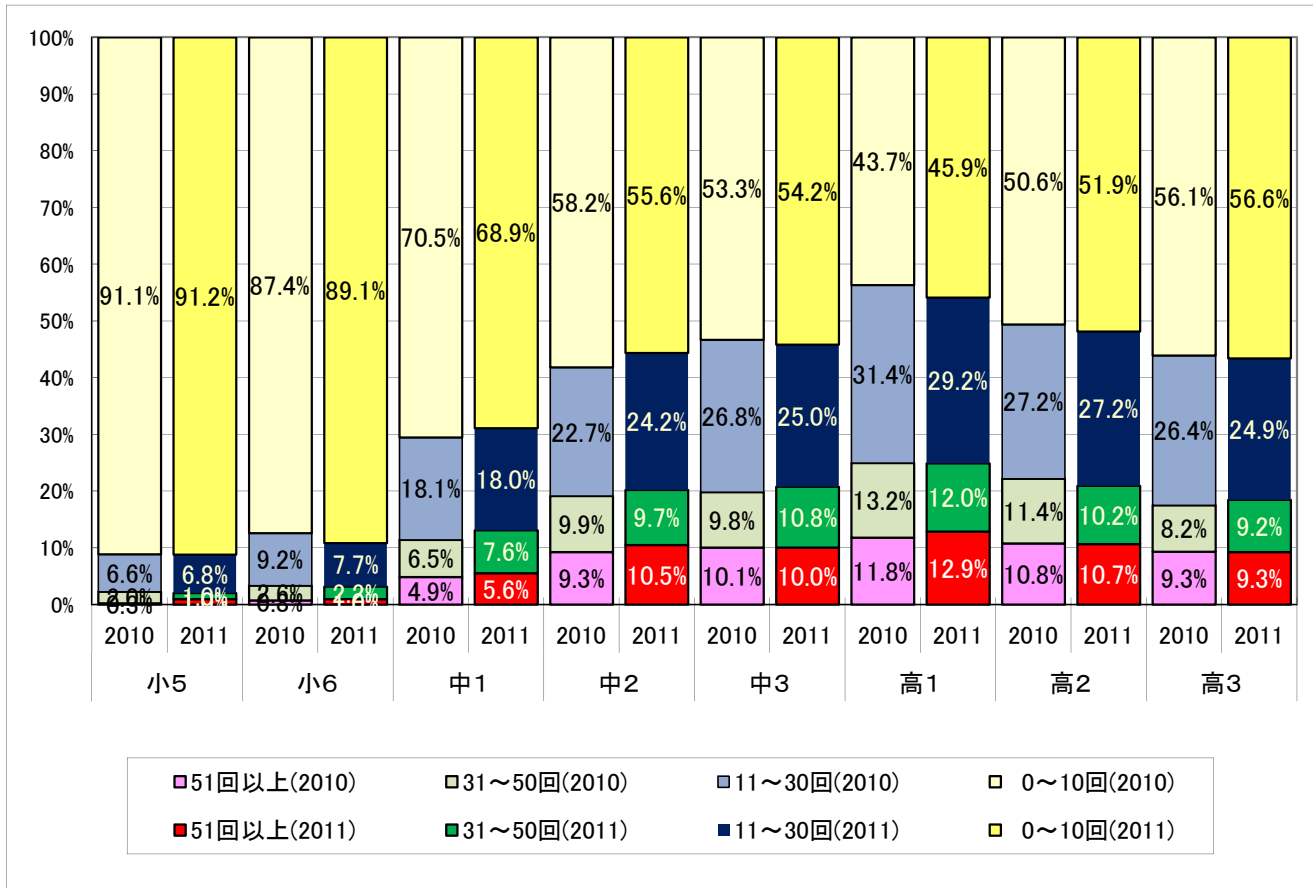
【指導のポイント】

○ 携帯電話への依存に加えて、「1日に1時間以上使用する」と答えた子どもたちの使用目的・内容にも目を向けたい。長時間使用する場合には、家庭や仲間との連絡のために携帯電話を使用するのではなく、オンラインゲームなどのインターネットを活用した様々なサービスを利用していると考えられる。そのような利用状況から発生する問題点や課題を明らかにし指導する。

Q9

Q7で「ほぼ毎日」「たまに」と答えた人は、電子メールを1日何回くらい使いますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
51回以上	2011	1.0%	1.0%	5.6%	10.5%	10.0%	12.9%	10.7%	9.3%	1.0%	9.0%	11.0%
	2010	0.3%	0.8%	4.9%	9.3%	10.1%	11.8%	10.8%	9.3%	0.5%	8.4%	10.7%
31回～50回	2011	1.0%	2.2%	7.6%	9.7%	10.8%	12.0%	10.2%	9.2%	1.7%	9.6%	10.5%
	2010	2.0%	2.6%	6.5%	9.9%	9.8%	13.2%	11.4%	8.2%	2.3%	8.9%	11.0%
11回～30回	2011	6.8%	7.7%	18.0%	24.2%	25.0%	29.2%	27.2%	24.9%	7.2%	22.9%	27.2%
	2010	6.6%	9.2%	18.1%	22.7%	26.8%	31.4%	27.2%	26.4%	7.9%	23.0%	28.4%
0回～10回	2011	91.2%	89.1%	68.9%	55.8%	54.2%	45.9%	51.9%	56.8%	90.1%	58.8%	51.3%
	2010	91.1%	87.4%	70.5%	58.2%	53.3%	43.7%	50.6%	56.1%	89.3%	59.7%	49.9%



◆各学年とも電子メールを使う頻度は昨年度と比較して大きな変化は見られない。年齢と共に頻度は増加し、高1をピークとして減少する。中2以上においては、携帯電話を日常的に使用する子どものうち「1日に51回以上」も電子メールを使っている子どもが10人に1人の割合で存在する。

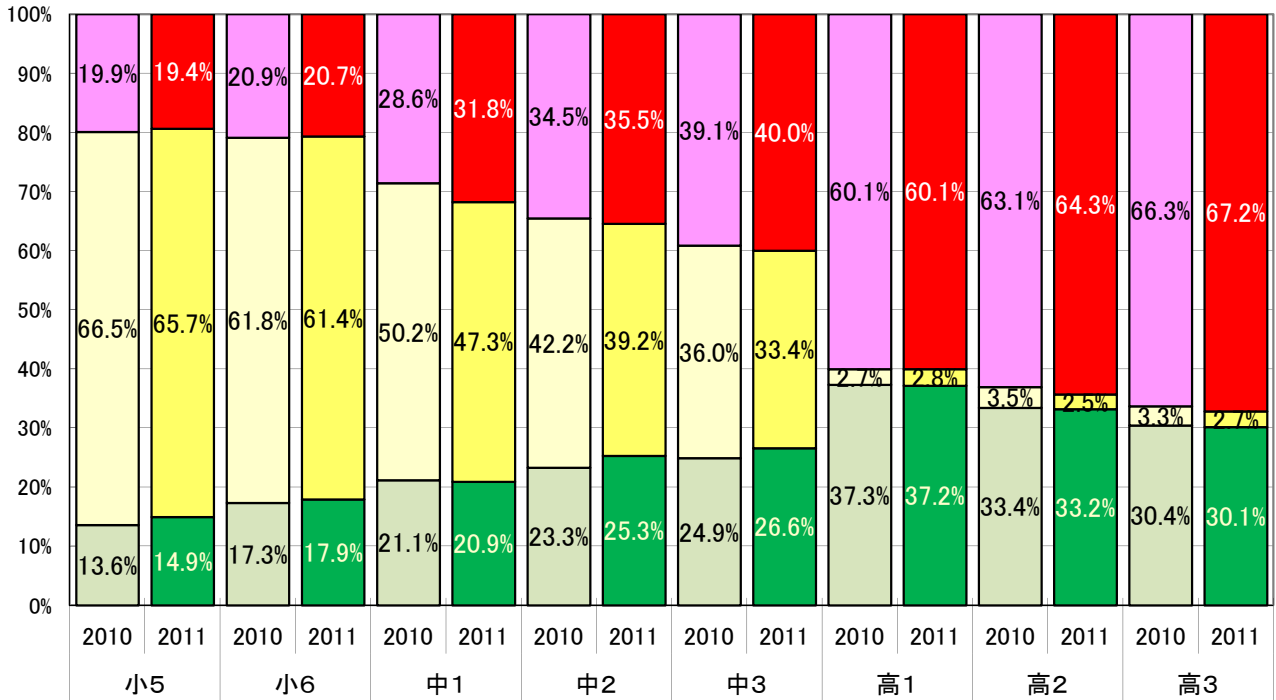
【指導のポイント】

○子どもたちにとって、電子メールが単なる連絡手段のみでなく、コミュニケーションツールとして位置付けているのがうかがえる。自身の生活ばかりでなく、送信相手の生活にも大きな影響を与えることなどを見つめ直し、電子メールの正しい活用の仕方について考える場を設ける。

Q10

あなたの家では、子どもが使う携帯電話（兄弟姉妹のものも含む）の利用のしかた（利用時間や利用料金など）は決められていますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
決められている	2011	14.9%	17.9%	20.9%	25.3%	26.6%	37.2%	33.2%	30.1%	16.4%	24.3%	33.6%
	2010	13.6%	17.3%	21.1%	23.3%	24.9%	37.3%	33.4%	30.4%	15.4%	23.1%	33.8%
使っていない	2011	65.7%	61.4%	47.3%	39.2%	33.4%	2.8%	2.5%	2.7%	63.5%	39.8%	2.6%
	2010	66.5%	61.8%	50.2%	42.2%	36.0%	2.7%	3.5%	3.3%	64.2%	42.8%	3.1%
決められていない	2011	19.4%	20.7%	31.8%	35.5%	40.0%	60.1%	64.3%	67.2%	20.0%	35.8%	63.8%
	2010	19.9%	20.9%	28.6%	34.5%	39.1%	60.1%	63.1%	66.3%	20.4%	34.1%	63.1%



決まっている(2010) 使っていない(2010) 決められていない(2010)
 決まっている(2011) 使っていない(2011) 決められていない(2011)

◆「家庭で利用の仕方が決められていない」と答えた割合が、中高生すべての学年で微増している。携帯電話を所有する子どものみを対象とした割合に換算すると、小学生を含めたすべての学年で「家庭で利用の仕方が決められていない」と答えている子どもが過半数を超えているのは大きな問題である。

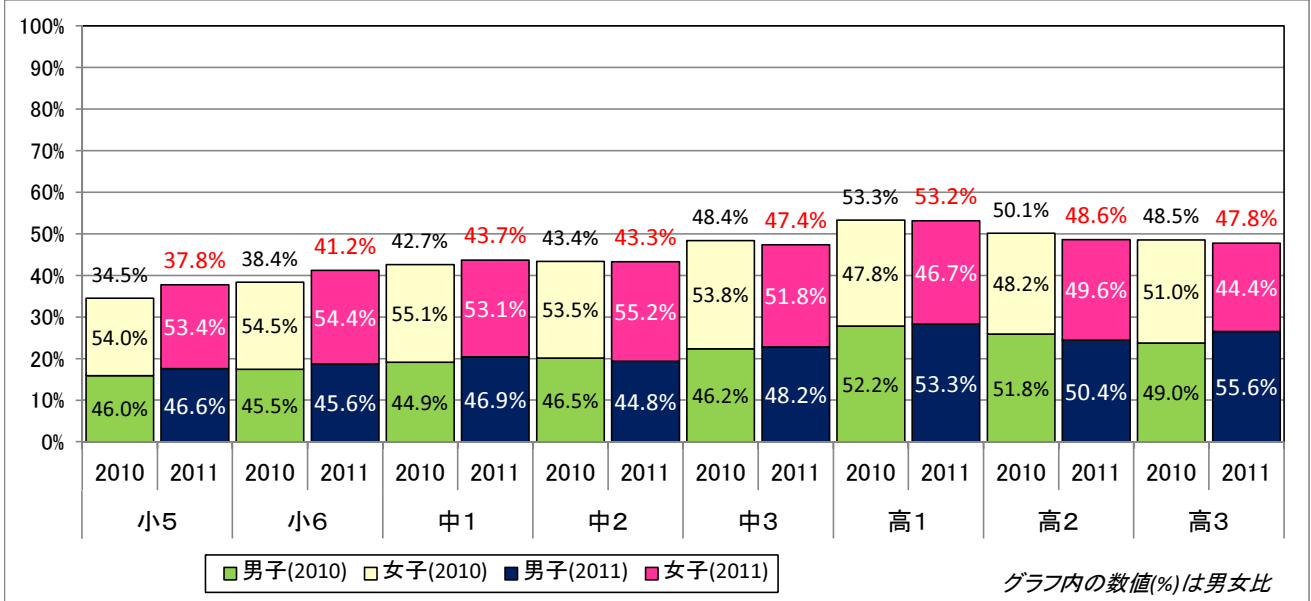
【指導のポイント】

○携帯電話を購入し子どもの使用を認めているのは保護者であることから、保護者の責任ある管理・見守りを促したい。各学校で家庭での「利用の決まり」が定められているかなどのアンケート調査を通し実態把握を行い、それぞれの家庭で決まりをつくるよう啓発をする。その際には、ただ単に使用料金の上限などの決まりを設けるのではなく、使用時間や時間帯、目的、使用するサイトやサービス、通信相手などについて、携帯電話を安全・安心に使うための具体的な決まりになるよう啓発する。

Q11

あなたは、家で情報モラルや携帯電話のマナーについての話を聞いたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		ある	2011	37.8%	41.2%	43.7%	43.3%	47.4%	53.2%	48.6%	47.8%	39.5%
	2010	34.5%	38.4%	42.7%	43.4%	48.4%	53.3%	50.1%	48.5%	36.5%	44.8%	50.7%



◆情報モラルやマナーについての話を聞く家庭が小学生では増加しているが、中高生では大きな変化は見られない。ほとんどの生徒が携帯電話を使用している高校生においても、半数近くしか家庭内で話題にされていないのが現状である。

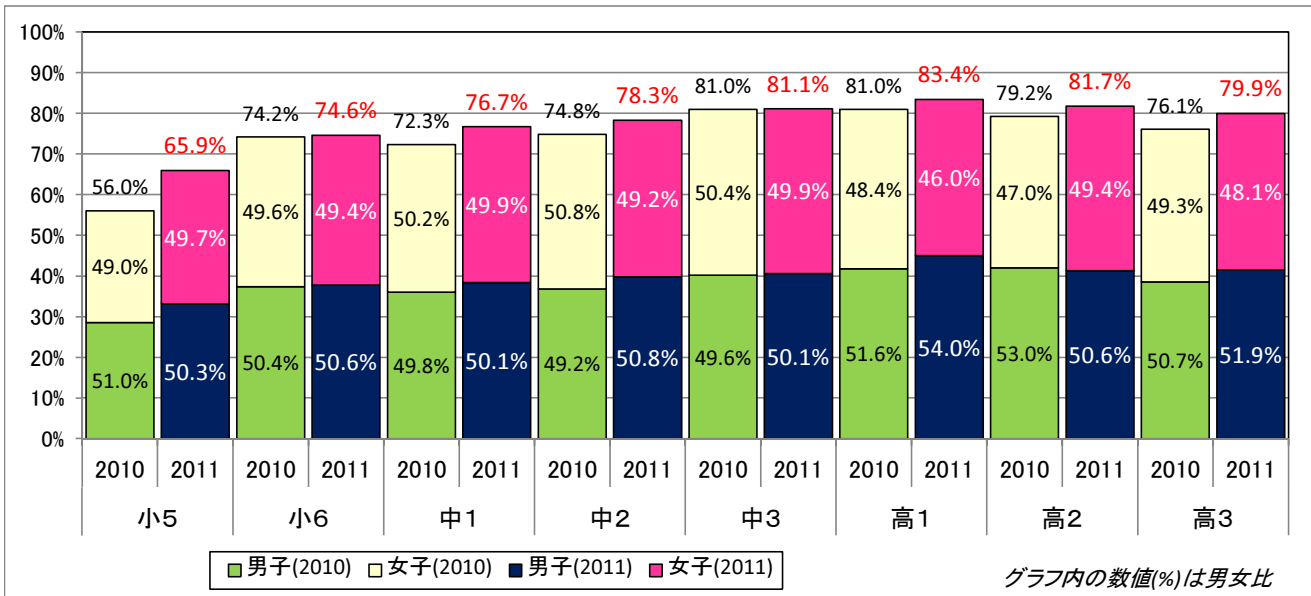
【指導のポイント】

○Q10の家庭における決まりを作ることに加えて、継続的に保護者が子どもの使用状況を把握し、責任をもって管理・見守りができるように啓発をする。使用状況が思わしくない場合には使用の制限をするなど、保護者の積極的な関わりを促したい。

Q12

あなたは、学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		ある	2011	65.9%	74.6%	76.7%	78.3%	81.1%	83.4%	81.7%	79.9%	70.3%
	2010	56.0%	74.2%	72.3%	74.8%	81.0%	81.0%	79.2%	76.1%	65.1%	76.0%	78.8%



◆すべての学年において、情報モラルに関わる学習体験をもつ子どもが増加している。昨年度の課題の一つであった小5での情報モラル教育の実施が顕著に向上している。「勉強したことがある」と答えた子どもが平均して8割近くに達しているが、100%にさらに近づけたい。

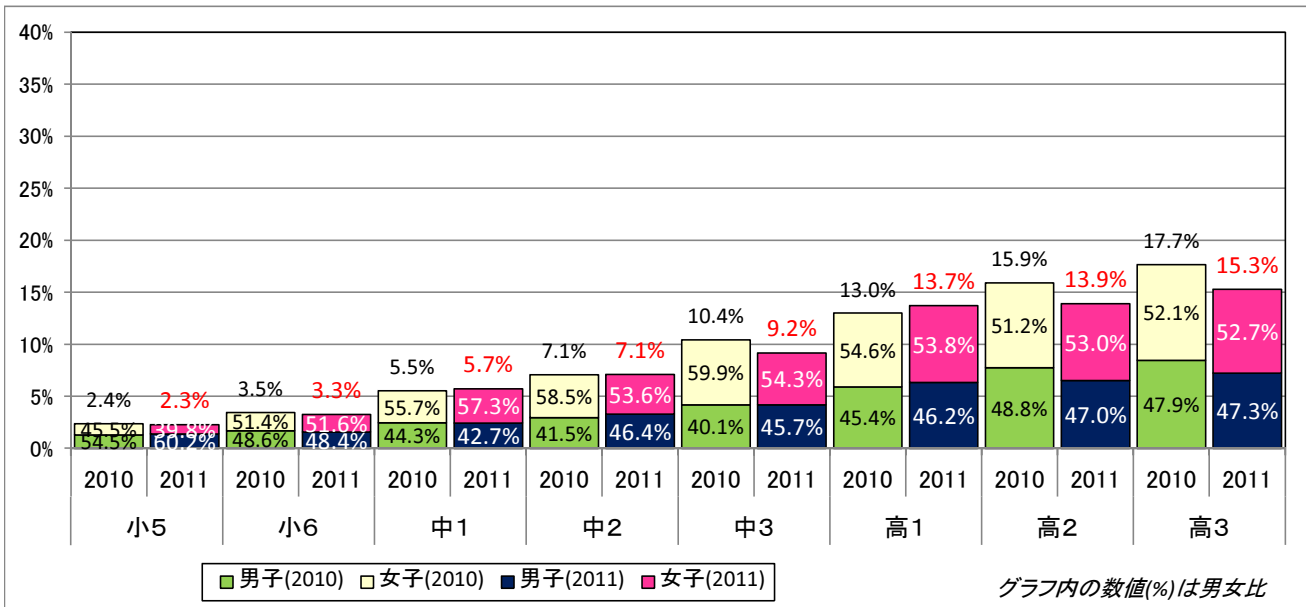
【指導のポイント】

○携帯電話を実際に持っていない時期から、「情報モラル指導モデルカリキュラム」(文部科学省)などを参考に情報モラル教育を意図的・計画的に指導を行う。教科、道徳、総合的な学習、特別活動など全教育活動において指導する。

Q13

あなたは、インターネットや携帯メールや掲示板などで、被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ある	2011	2.3%	3.3%	5.7%	7.1%	9.2%	13.7%	13.9%	15.3%	2.8%	7.4%	14.3%
	2010	2.4%	3.5%	5.5%	7.1%	10.4%	13.0%	15.9%	17.7%	2.9%	7.7%	15.5%

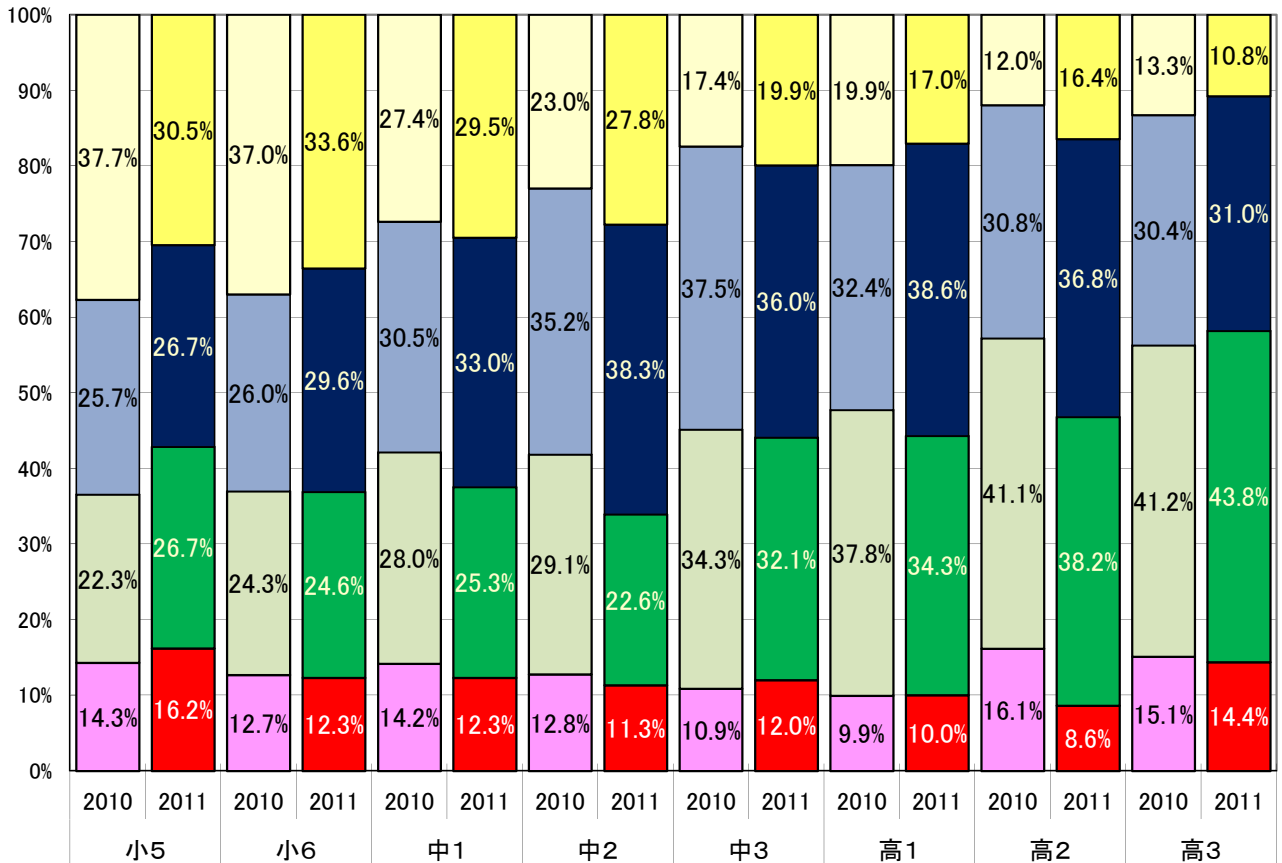


◆小・中・高と学年が進むにつれて被害体験率は増しているが、昨年度に比べ被害体験率が大きく増加している学年は見られない。また、高2・高3の被害体験率は減少している。男女別に比較をすると、掲示板や電子メールやブログ・プロフの使用が多い女子の方が被害に遭う割合が高い。
【指導のポイント】
 ○子どもたちが被害者となる場合に加えて、加害者になる事例も大変増えてきている。表情の伝わらない活字での表現、不特定多数の人への公開、発言したことが容易には取り消せないことなど、情報の特性をよく理解した上で利用できるように指導する。

Q14

被害を受けたとき、どうしましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
どうしていいかわからなかった だったので、そのままにした	2011	16.2%	12.3%	12.3%	11.3%	12.0%	10.0%	8.6%	14.4%	13.9%	11.8%	11.1%
	2010	14.3%	12.7%	14.2%	12.8%	10.9%	9.9%	16.1%	15.1%	13.3%	12.3%	13.9%
何もしない方がいいと思っ て、そのままにした	2011	26.7%	24.6%	25.3%	22.6%	32.1%	34.3%	38.2%	43.8%	25.4%	27.3%	38.9%
	2010	22.3%	24.3%	28.0%	29.1%	34.3%	37.8%	41.1%	41.2%	23.6%	31.0%	40.2%
解決方法を知っていたので、 自分で解決した	2011	26.7%	29.6%	33.0%	38.3%	36.0%	38.6%	36.8%	31.0%	28.4%	36.0%	35.4%
	2010	25.7%	26.0%	30.5%	35.2%	37.5%	32.4%	30.8%	30.4%	25.9%	35.0%	31.1%
その他(相談等を含む)	2011	30.5%	33.6%	29.5%	27.8%	19.9%	17.0%	16.4%	10.8%	32.3%	24.9%	14.7%
	2010	37.7%	37.0%	27.4%	23.0%	17.4%	19.9%	12.0%	13.3%	37.3%	21.7%	14.8%



- どうしていいのかわからなかった
だったので、そのままにした(2010)
- どうしていいのかわからなかった
だったので、そのままにした(2011)
- 何もしない方がいいと思っ
て、そのままにした(2010)
- 何もしない方がいいと思っ
て、そのままにした(2011)
- 解決方法を知っていたので自
分で解決した(2010)
- 解決方法を知っていたので自
分で解決した(2011)
- その他(相談等を含む)(2010)
- その他(相談等を含む)(2011)

◆ほとんどの学年で「どうしていいのかわからなかった
だったので、そのままにした」が減少している。しかし、
小5においては増加傾向にある。また他の男女別の
データによると、女子より男子の方が「自ら解決
した」割合が高い傾向がある。

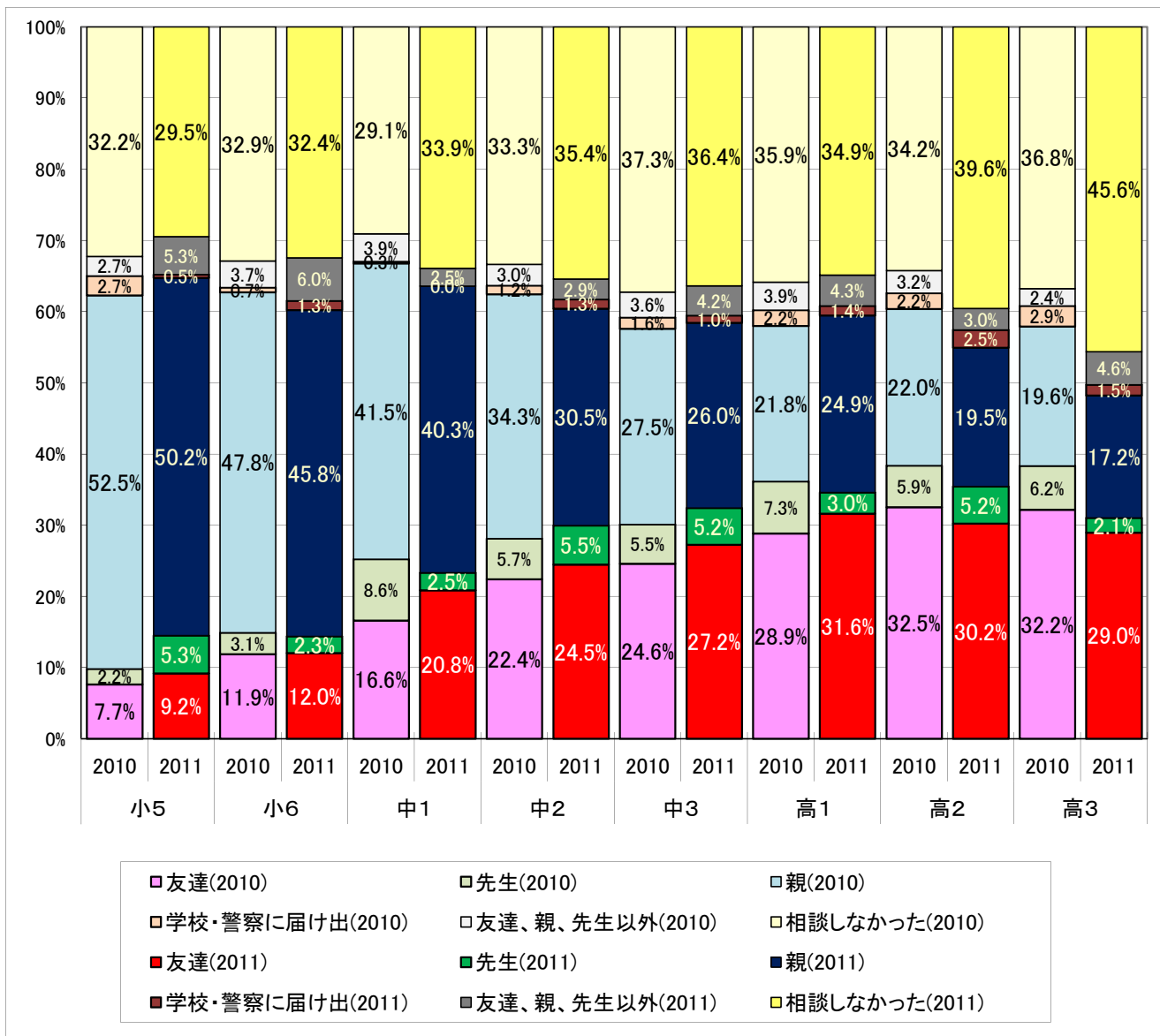
【指導のポイント】

○架空請求などのネット上のトラブルでは、何もせずそのままにしておくことで被害を免れることも多い。しかし、情報モラル指導を行うことにより、自ら不要な危険から回避し、トラブルに対して適切に対処する力を高めたい。

Q15

被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
友達	2011	9.2%	12.0%	20.8%	24.5%	27.2%	31.6%	30.2%	29.0%	10.9%	24.7%	30.2%
	2010	7.7%	11.9%	16.6%	22.4%	24.6%	28.9%	32.5%	32.2%	10.3%	21.8%	31.3%
先生	2011	5.3%	2.3%	2.5%	5.5%	5.2%	3.0%	5.2%	2.1%	3.6%	4.6%	3.4%
	2010	2.2%	3.1%	8.6%	5.7%	5.5%	7.3%	5.9%	6.2%	2.7%	6.4%	6.4%
親	2011	50.2%	45.8%	40.3%	30.5%	26.0%	24.9%	19.5%	17.2%	47.6%	31.0%	20.5%
	2010	52.5%	47.8%	41.5%	34.3%	27.5%	21.8%	22.0%	19.6%	49.6%	33.2%	21.1%
学校・警察に届け出	2011	0.5%	1.3%	0.0%	1.3%	1.0%	1.4%	2.5%	1.5%	1.0%	0.9%	1.8%
	2010	2.7%	0.7%	0.3%	1.2%	1.6%	2.2%	2.2%	2.9%	1.5%	1.2%	2.5%
友達・親・先生以外	2011	5.3%	6.0%	2.5%	2.9%	4.2%	4.3%	3.0%	4.6%	5.7%	3.3%	4.0%
	2010	2.7%	3.7%	3.9%	3.0%	3.6%	3.9%	3.2%	2.4%	3.3%	3.5%	3.1%
相談しなかった	2011	29.5%	32.4%	33.9%	35.4%	36.4%	34.9%	39.6%	45.6%	31.2%	35.5%	40.1%
	2010	32.2%	32.9%	29.1%	33.3%	37.3%	35.9%	34.2%	39.6%	32.6%	33.9%	35.7%



◆小5～高1では「友だちに相談する」割合が増加している。また、全体的に「親や先生に相談する」割合は減少傾向にある。特に高2・高3は「誰にも相談しなかった」割合が著しく増加している。他の集計データによると、特別支援学校の子どもが被害に遭い「誰にも相談しない」割合も増加傾向にある。

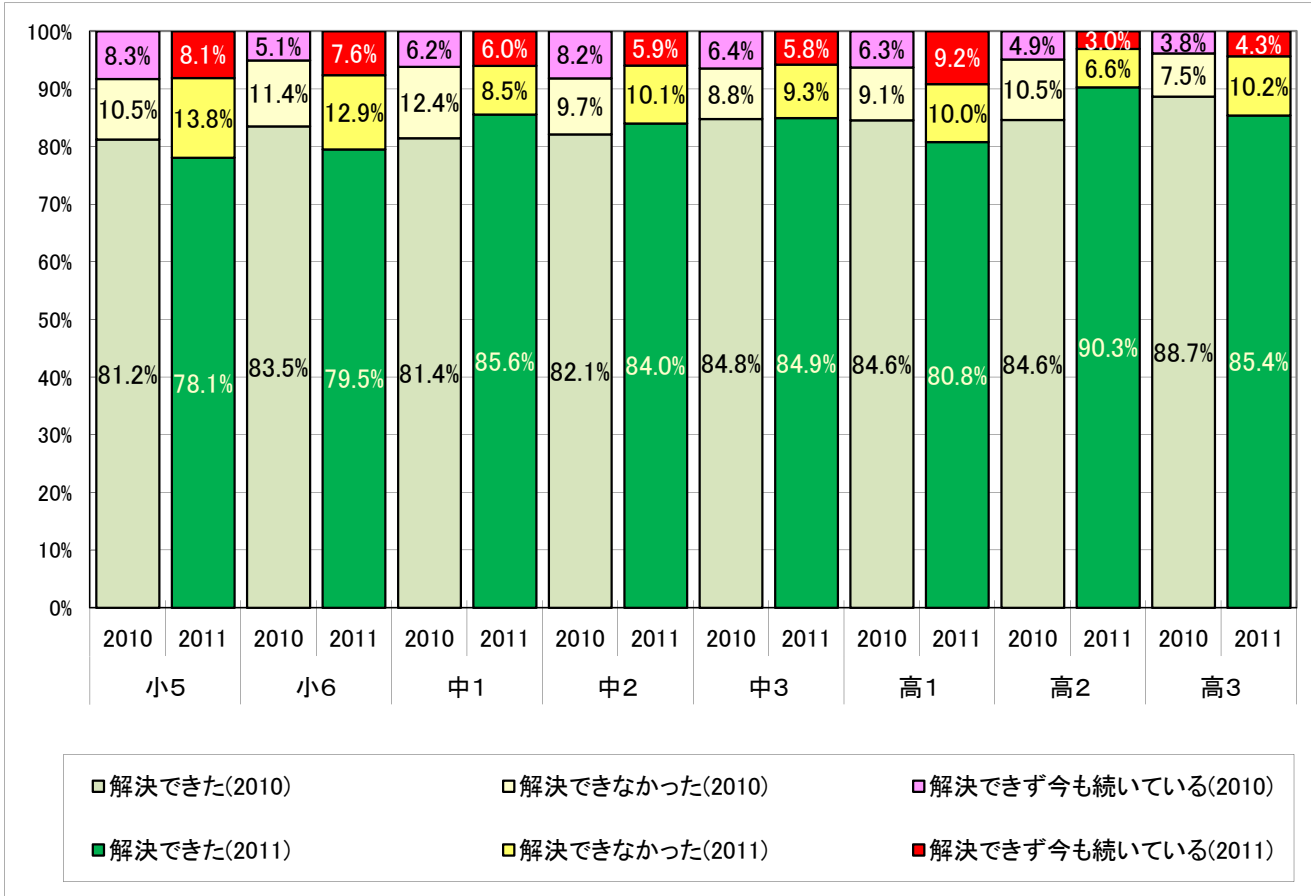
【指導のポイント】

○金銭の要求や脅迫などにおいて、犯罪者が子どもに大人に相談しないように仕向ける事例が増えている。トラブルに遭った時には、被害が拡大・深刻化しないうちに、できるだけ早く教師や保護者に相談するように、普段から啓発しておく必要がある。また、保護者についても、トラブルに対応するための知識が乏しいことがあるので、専門的なアドバイスを受けることができる機関を保護者会等で周知しておくようにする。

Q16

解決できましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
解決できた	2011	78.1%	79.5%	85.6%	84.0%	84.9%	80.8%	90.3%	85.4%	78.9%	84.8%	85.5%
	2010	81.2%	83.5%	81.4%	82.1%	84.8%	84.6%	84.6%	88.7%	82.6%	83.1%	86.1%
解決できなかった	2011	13.8%	12.9%	8.5%	10.1%	9.3%	10.0%	6.6%	10.2%	13.3%	9.3%	9.0%
	2010	10.5%	11.4%	12.4%	9.7%	8.8%	9.1%	10.5%	7.5%	11.1%	10.0%	9.0%
解決できず、今も続いている	2011	8.1%	7.6%	6.0%	5.9%	5.8%	9.2%	3.0%	4.3%	7.8%	5.9%	5.5%
	2010	8.3%	5.1%	6.2%	8.2%	6.4%	6.3%	4.9%	3.8%	6.3%	6.9%	4.9%



◆小学生と高1・高3の「解決できなかった」「解決できず今も続いている」の割合が増加している。被害数そのものの絶対数は少ないが、「解決できずに今も続いている」と答えている子どもの存在は見逃せない。他の集計データによると、小学校男子児童や特別支援学校の生徒の「解決できなかった」と答えている割合が増加している。

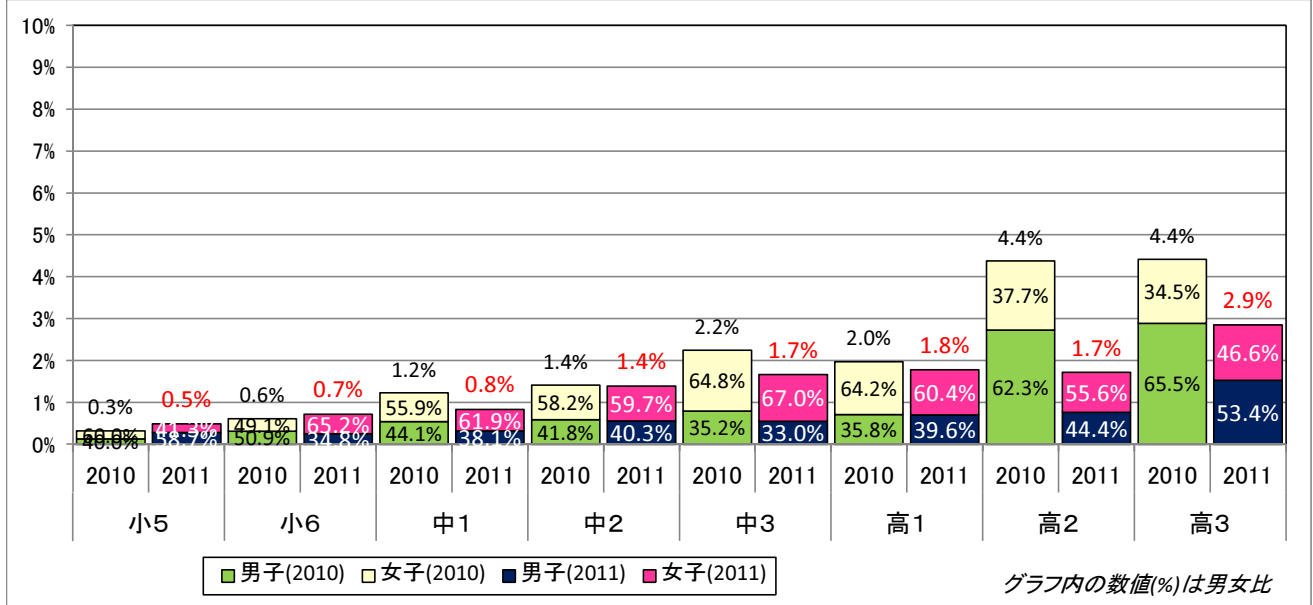
【指導のポイント】

○被害に遭わないための方法や、トラブルに陥ってしまった時の被害を最小限にとどめる「スキル(技能)」を、事例学習(ケーススタディー)を通して行うようにし、「～のときは～する。」と明確に指導していく。

Q17

メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ある	2011	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	1.7%	1.8%	1.7%	2.9%	0.6%	1.3%	2.1%
	2010	0.3%	0.6%	1.2%	1.4%	2.2%	2.0%	4.4%	4.4%	0.5%	1.6%	3.6%



◆昨年度と比較すると、中3～高3の「ある」と答えた生徒の割合は減少しているが、いじめ根絶という視点から、一例であっても許さないという対応が必要である。他の男女別集計データによると、男子より女子がいじめに遭う割合がやや多い傾向にある。

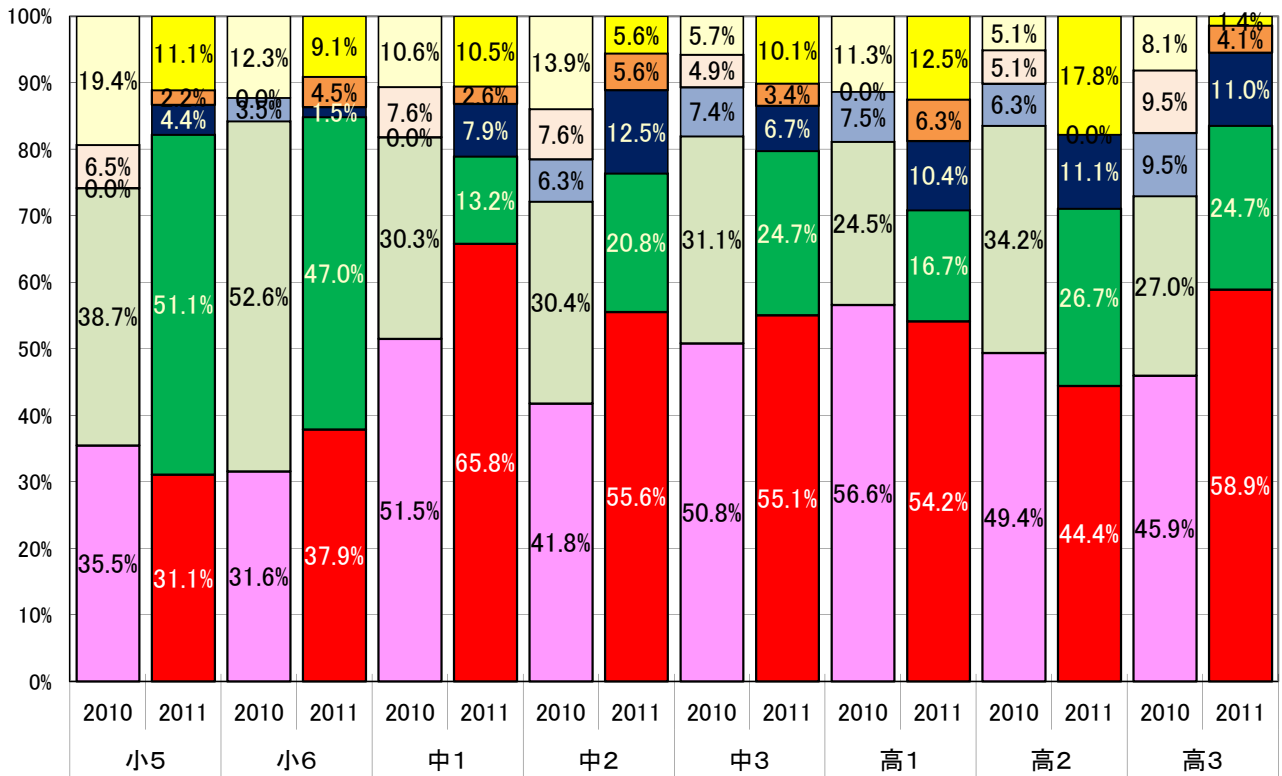
【指導のポイント】

○ネット上のいじめは通常のいじめと比較すると、「継続的で執拗ないじめ」「不特定多数からのいじめ」「いじめる側の実感を伴わないいじめ」となる傾向がある。また、教師や保護者の目の届かないところで行われ、発見が遅れて深刻化する場合も多い。教師、保護者の情報モラルに関する知識を高め、子どもの様子の変化について敏感に感じ取ることができるように研修等を行う。また、ネットいじめの事例を通して、子どもたち自身がじっくりと「考える場」を位置付けた丁寧な指導が必要である。

Q18

いじめを受けたと感じた理由は何ですか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
友達に悪口を書かれた	2011	31.1%	37.9%	65.8%	55.6%	55.1%	54.2%	44.4%	58.9%	35.1%	57.3%	53.6%
	2010	35.5%	31.6%	51.5%	41.8%	50.8%	56.6%	49.4%	45.9%	33.0%	48.3%	50.0%
知らない人に悪口を書かれた	2011	51.1%	47.0%	13.2%	20.8%	24.7%	16.7%	26.7%	24.7%	48.6%	21.1%	22.9%
	2010	38.7%	52.6%	30.3%	30.4%	31.1%	24.5%	34.2%	27.0%	47.7%	30.7%	29.1%
個人情報が公開された	2011	4.4%	1.5%	7.9%	12.5%	6.7%	10.4%	11.1%	11.0%	2.7%	9.0%	10.8%
	2010	0.0%	3.5%	0.0%	6.3%	7.4%	7.5%	6.3%	9.5%	2.3%	5.2%	7.8%
おどされたり、お金を請求されたりした	2011	2.2%	4.5%	2.6%	5.6%	3.4%	6.3%	0.0%	4.1%	3.6%	4.0%	3.6%
	2010	6.5%	0.0%	7.6%	7.6%	4.9%	0.0%	5.1%	9.5%	2.3%	6.4%	5.3%
その他	2011	11.1%	9.1%	10.5%	5.6%	10.1%	12.5%	17.8%	1.4%	9.9%	8.5%	9.0%
	2010	19.4%	12.3%	10.6%	13.9%	5.7%	11.3%	5.1%	8.1%	14.8%	9.4%	7.8%



- 友だちに悪口を書かれた(2010)
- 知らない人に悪口を書かれた(2010)
- 個人情報が公開された(2010)
- おどされたり、お金を請求されたりした(2010)
- その他(2010)
- 友だちに悪口を書かれた(2011)
- 知らない人に悪口を書かれた(2011)
- 個人情報が公開された(2011)
- おどされたり、お金を請求されたりした(2011)
- その他(2011)

◆ 中学生においては、「知らない人に悪口を書かれた」の割合が減少し、「友だちに悪口を書かれた」の割合が大きく増加している。また、しかし、小5においては「知らない人に悪口を書かれた」の割合が増加している。また、全体的に「個人情報が公開された」と答えた割合が増加している。

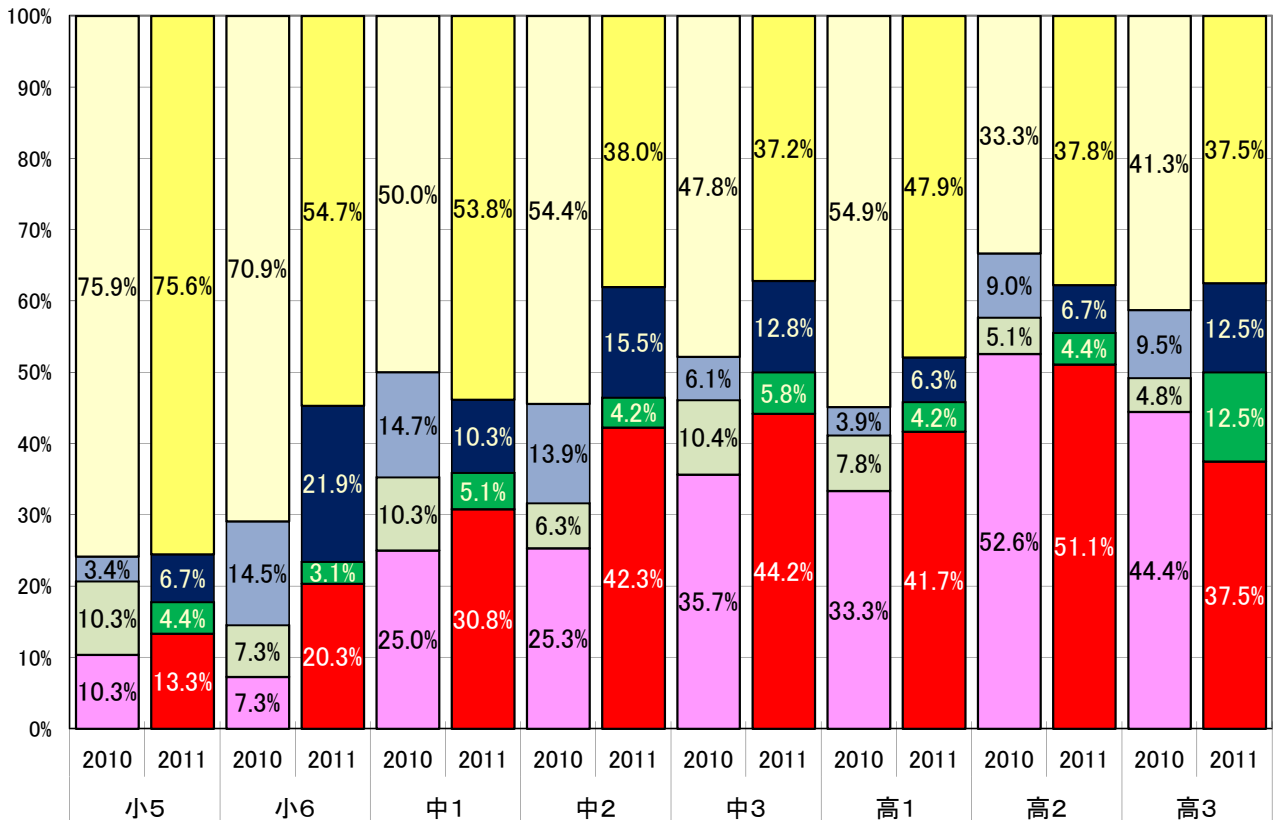
【指導のポイント】

○いわゆる「学校裏サイト」等の掲示板への書き込みが減少し、SNSやゲームサイトなどの仲間同士でパスワードを設定し限定された人同士で書き込むことが増えている。「ネットの向こうには見知らぬ人がいるので注意する」という場合の指導に加えて、仲のよい仲間同士においても情報モラルを守って活用することの大切さを指導する。その際には情報の特性をよく理解させると共に、相手を尊重した責任ある言動や情報発信を行うことの重要性を考えさせるとよい。

Q19

何が原因でいじめを受けたと思いますか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
学校でのトラブル(もめごと)	2011	13.3%	20.3%	30.8%	42.3%	44.2%	41.7%	51.1%	37.5%	17.4%	40.8%	42.4%
	2010	10.3%	7.3%	25.0%	25.3%	35.7%	33.3%	52.6%	44.4%	8.3%	29.8%	44.8%
友だちのメールを無視したり、返事が遅かったりした	2011	4.4%	3.1%	5.1%	4.2%	5.8%	4.2%	4.4%	12.5%	3.7%	5.1%	7.9%
	2010	10.3%	7.3%	10.3%	6.3%	10.4%	7.8%	5.1%	4.8%	8.3%	9.2%	5.7%
掲示板やブログに書き込みをした	2011	6.7%	21.9%	10.3%	15.5%	12.8%	6.3%	6.7%	12.5%	15.6%	13.3%	9.1%
	2010	3.4%	14.5%	14.7%	13.9%	6.1%	3.9%	9.0%	9.5%	10.7%	10.7%	7.8%
理由はわからない	2011	75.6%	54.7%	53.8%	38.0%	37.2%	47.9%	37.8%	37.5%	63.3%	40.8%	40.6%
	2010	75.9%	70.9%	50.0%	54.4%	47.8%	54.9%	33.3%	41.3%	72.6%	50.4%	41.7%



- 学校でのトラブル(2010)
- 学校でのトラブル(2011)
- 掲示板やブログに書き込みをした(2010)
- 掲示板やブログに書き込みをした(2011)
- メールを無視したり返事が遅れた(2010)
- メールを無視したり返事が遅れた(2011)
- わからない(2010)
- わからない(2011)

◆小5～高1までの学年で「学校でのトラブル」を原因とすると答えた割合が大変増加している。また、小学生では「掲示板やブログへの書き込み」を原因とするトラブルが増加している。

【指導のポイント】

○学校生活のトラブルとネット上でのトラブルが互いに連動して起こる事例が増加している。学校での生活の様子に加えて、ネット上での人間関係にも視野を広げて指導を行う必要が高まっている。また、小学生は情報モラルの知識やスキル(技能)の欠如から、不用意な発言をしてしまったり、見知らぬ人とトラブルに陥ったりする事例が増加している。早い時期からの情報モラル学習の積み上げが必要である。